

## 中学校の環境整備に関するアンケートのお願い

三木市では、「総合教育会議」※<sup>1</sup>において、少子化が進む中で子どもたちの教育の充実を図るため、めざす教育の方向性を定め、望ましい学校環境のあり方について議論しています。

その中で、小学校は、地域の拠点としての役割をも担っていることから、統廃合せずに小規模校のデメリット※<sup>2</sup>の解消を図ること、一方、中学校は、生徒数の減少によるデメリットが大きいため、「三木市学校環境あり方検討会議」を設置して生徒にとって望ましい学校環境のあり方を検討していくことになりました。

検討の対象は、全校生徒が100人未満の状態が今後も続き、一定規模の集団の確保が困難な志染中学校及び星陽中学校です。

そこで、検討を進めるに当たり、地域の皆様のご意見をお聴きするためのアンケート調査を実施し、その結果を踏まえて市の基本方針をまとめてまいります。

つきましては、お忙しい中お手数をおかけしますが、趣旨をご理解いただき、別添資料を参考に調査にご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成29年7月

三木市教育委員会

※1「総合教育会議」…地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、市長と教育委員会が、三木市の教育の課題やあるべき姿を共有して、今後の方針を協議する会議。

※2「デメリット」…別添資料P.1「一定規模の集団が確保できない中学校の課題」参照

### 1 回答いただく方について

このアンケートは、志染中学校区、星陽中学校区の全戸にお願いしています。ご家庭に中学生以下のお子様がおられる場合は、保護者の方がお答えください。お子様がおられない場合は、18歳以上の方であれば、どなたがお答えいただいても結構です。

### 2 アンケートの記入について

- (1) 当てはまる記号に○をつけてください。
- (2) 【複数回答可】の設問は、一つ以上○をつけていただいて結構です。
- (3) 「その他」を選ばれた方は、「自由記述」欄に記入をお願いします。

### 3 提出方法について

同封の「返信用封筒」に入れて平成29年8月18日(金)までにポストに投函してください(切手は不要)。お名前の記入は、必要ありません。

### 4 問合せ・提出先

三木市教育委員会 こども未来部 学校教育課 電話 82-2000 (内線 3521) 担当 生田



※ 本アンケートは、口百川町の地域住民(保護者)用アンケート。  
志保地区、糸田川地区それぞれ地区別に用意。  
(問1、問12が地区毎に選択肢内容が異なる)

## 中学校の環境整備に関するアンケート

## 回答用紙

問1 あなたのお住まいの地域に○をつけてください。

- ア 久次    イ 里脇    ウ 槇    エ 吉祥寺    オ 大島    カ 善祥寺  
キ 笹原    ク 殿畑    ケ 南畑    コ 保木    サ 楯原    シ 東  
ス 馬場    セ 蓮花寺    ソ 東中    タ 西中    チ 桃坂

問2 あなたの年齢について、当てはまる記号に○をつけてください。

- ア 10代    イ 20代    ウ 30代    エ 40代    オ 50代    カ 60代以上

問3 あなたの世帯に中学生以下のお子さまがおられますか。

- ア いる    イ いない → 問5へおすすみください

問4 お子さまについて当てはまる記号すべてに○をつけてください。

- ア 小学校入学前の児童    イ 小学生    ウ 中学生

問5 中学校に期待する教育や指導内容は何ですか。

当てはまる記号に○をつけてください。【複数回答可】

- ア 子どもの学力を伸ばすこと  
イ 子どもの体力やスポーツの能力を向上させること  
ウ 友だちとの触れ合いの中で子どもの社会性を伸ばすこと  
エ 規則を守ったり、友だちを思いやる心を育むこと  
オ 将来の進路や職業を考えさせること  
カ ない  
キ 分からない  
ク その他（自由記述）

--

問6 中学校1学年当たりのクラス数は、どの程度の数が望ましいと思いますか。  
当てはまる記号に○をつけてください。【複数回答可】

- ア 1クラス（全学年で3クラス）が良い  
→アを選んだ方、クラスの人数は何人くらいが良いかお書きください。（            ）人
- イ 2～3クラス（全学年で6～9クラス）が良い
- ウ 4クラス以上（全学年で12クラス以上）が良い
- エ どれともいえない → 問8へおすすみください
- オ 分からない → 問8へおすすみください

問7 問6でア～ウを選んだ方にお尋ねします。選んだ項目について、そう思われる理由は何ですか。当てはまる記号に○をつけてください。【複数回答可】

- ア 一人ひとりに目が行き届き、丁寧な指導が期待できる
- イ さまざまな個性を持つ友達と触れ合い、互いに励まし合いながら向上できる
- ウ 同じ生徒とずっと同じクラスで過ごせ、互いに親密になれる
- エ 学校全体に活気が出て、学校行事が盛大にできる
- オ 学校行事などで活躍できる場がたくさんできる
- カ クラス替えがあり、たくさんの友達ができる
- キ 学年を超えた友達ができやすい
- ク ゆとりのある教育が受けられる
- ケ 社会性や協調性を養う機会に恵まれる
- コ 部活動の選択の幅が広がる
- サ その他（自由記述）

問8 お住まいの地域にある中学校について良いと思っていることは何ですか。  
当てはまる記号に○をつけてください。【複数回答可】

- ア 生徒一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな指導が期待できること
- イ 学校行事などにおいて、生徒一人一人の個別の活動機会が多いこと
- ウ 生徒相互の人間関係が深まりやすいこと
- エ 異学年との交流の機会が多いこと
- オ 学校と保護者や地域との連携が図りやすいこと
- カ 良い点はない
- キ 分からない
- ク その他（自由記述）

問9 お住まいの地域にある中学校について不安に思っていることは何ですか。

当てはまる記号に○をつけてください。【複数回答可】

- ア クラス替えがないため、固定化された人間関係であること
- イ 部活動の種類が限定されること
- ウ 多様な意見や考えに触れる機会がないこと
- エ 学校行事等の集団活動に制限があること
- オ 多くの生徒との関わりの中で切磋琢磨する機会が少ないこと
- カ 不安はない
- キ 分からない
- ク その他（自由記述）

問10 お住まいの地域にある中学校を、今後どのようにすることが望ましいとお考えですか。どちらかの記号に○をつけてください。

- ア 中学校をそのまま残す → 問13へおすすみください
- イ 新たな方法で進める → 問11へおすすみください
- ウ 分からない → 問13へおすすみください

問11 問10で「イ」と答えた方、どのような方法が望ましいとお考えですか。当てはまる記号ひとつに○をつけてください。（別添資料を参考にお答えください。）

- ア 学校選択制（別添資料P. 2をご覧ください） → 問12へおすすみください
- イ 学校統合（別添資料P. 3をご覧ください） → 問12へおすすみください
- ウ 小中一貫校（別添資料P. 4をご覧ください） → 問13へおすすみください
- エ その他（自由記述） → 問13へおすすみください

問12 問11で「ア」または「イ」と答えた方にお聞きします。あなたが考える「近隣」の中学校はどこですか。当てはまる記号に○をつけてください。【複数回答可】

- ア 三木      イ 三木東      ウ 別所      エ 志染      オ 緑が丘
- カ 自由が丘      キ 吉川



# 中学校の環境整備に関するアンケート

【中学生用】

三木市教育委員会

問1 あなたの学年について、当てはまる記号に○をつけてください。

ア 中学1年生                      イ 中学2年生                      ウ 中学3年生

問2 生徒の人数が少ないことで良いこと、困ることを各項目ごとに書いてください(箇条書き)。

	良いこと	困ること
授 業		
部 活		
行 事		
そ の 他		

問3 あなたの中学校を、今後どのようにすることが望ましいと考えますか。  
どちらかの記号に○をつけてください。

- ア 中学校をそのまま残す → 設問は終わりです
- イ 新たな方法で進める → 問4へすすんでください
- ウ 分からない → 設問は終わりです

問4 問3で「イ」と答えた方、どのような方法が望ましいと考えますか。当てはまる  
記号ひとつに○をつけてください。(別添資料を参考に答えてください。)

- ア 学校選択制 (別添資料P.2を参照してください)
- イ 学校統合 (別添資料P.3を参照してください)
- ウ 小中一貫校 (別添資料P.4を参照してください)
- エ その他 (自由記述)


ご協力ありがとうございました。



アンケートにお答えいただく際の参考に、ご覧ください。

三木市教育委員会

## 志染中学校と星陽中学校の今後の生徒数の推移予想

今後、平成40年までの生徒の予想人数を示しています。

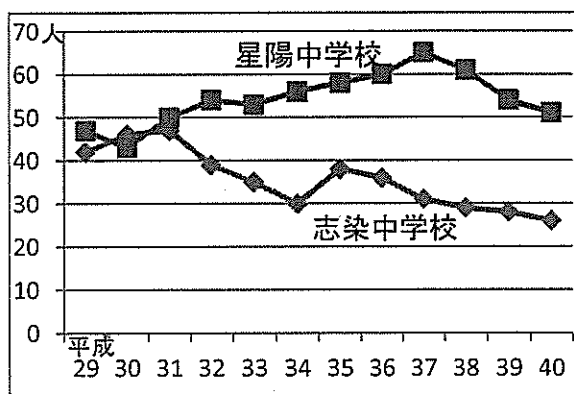
志染中学校は、人数の減少が続き、平成40年には現在の約60%の生徒数になると予想されます。星陽中学校は現在より一旦微増しますが、その後は減少していく状態が続くと予想されます。

### 予想人数の算出方法

- 平成29年～平成35年は、平成29年4月の小学校中学校の児童生徒数をもとに算出  
(例:平成32年の中学1年の人数は、現在小学4年生の人数)
- 平成36年以降の生徒数は、平成29年4月2日現在の住民基本台帳に記載されている年齢別人数をもとに算出 (例:平成40年の中学1年の人数は、現在の2歳児の人数)
- ※ 平成31年までの ( )内の数は、住民基本台帳による人数で、左側の数は実際の生徒数  
(校区外への通学等により人数が異なります)

志染中学校	学年	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
	1年	12(13)	18	17	4	14	12	12	12	7	10	11	5
2年	16(15)	12(13)	18	17	4	14	12	12	12	7	10	11	
3年	14(13)	16(15)	12(13)	18	17	4	14	12	12	12	7	10	
計	42(41)	46(46)	47(48)	39	35	30	38	36	31	29	28	26	

星陽中学校	学年	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40
	1年	13(14)	21	16	17	20	19	19	22	24	15	15	21
2年	9(15)	13(14)	21	16	17	20	19	19	22	24	15	15	
3年	25(26)	9(15)	13(14)	21	16	17	20	19	19	22	24	15	
計	47(55)	43(50)	50(51)	54	53	56	58	60	65	61	54	51	



平成29年～平成40年の全校生徒数の推移予想

### 一定規模の集団が確保できない中学校の課題

- ① 集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学び合いの機会、切磋琢磨する機会が少ない。
- ② 体育祭などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じる。
- ③ 部活動の設置が限定され、選択肢が少ない。
- ④ クラス替えがないことから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。
- ⑤ 集団内の男女比に極端な偏りが生じる可能性がある。

# 学校の教育環境を整備するための手法

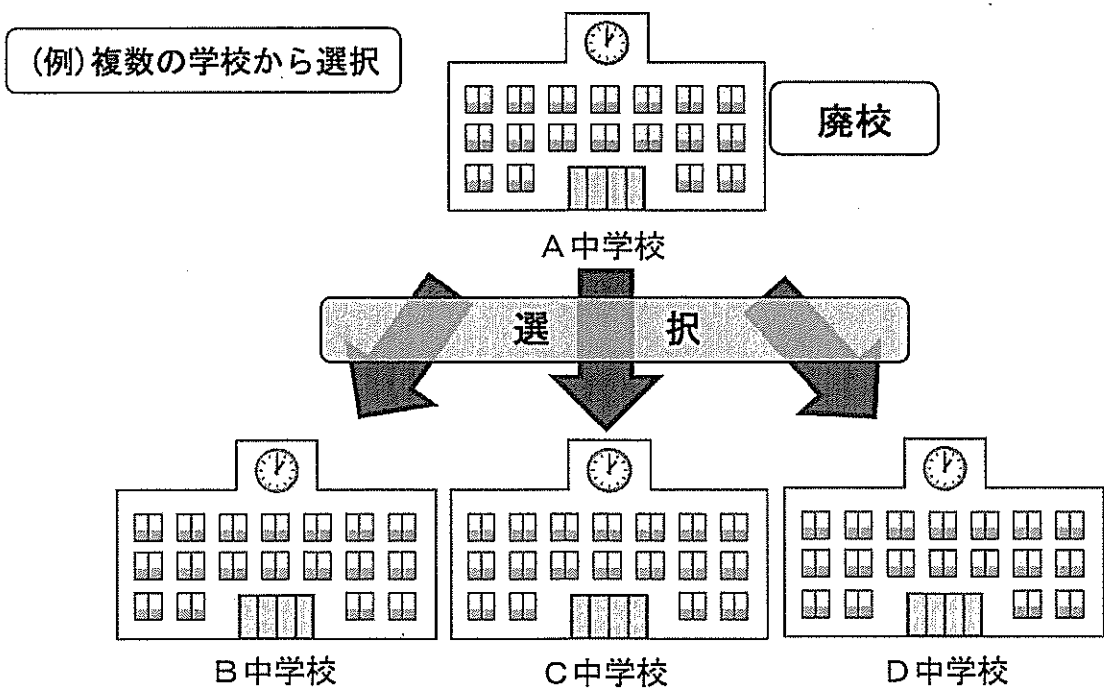
一定規模の集団を確保していくために、学校環境を整備する方法として、3つの手法を紹介します。

(記載内容は、一般的な内容であり、市が定めたものではありません。)

## 1 学校選択制

市が指定する複数の近隣中学校の中から生徒の希望する学校に進学すること。

メリット	デメリット
<p>① 居住地、学校規模、部活動等を考慮して、個人のニーズに合った学校を選べる。</p> <p>② 一定規模の学校で学ぶことにより多様な考えや意見に触れることができ、社会性がより育まれる。</p> <p>③ 一定規模の学校で学ぶことにより切磋琢磨する環境の中で、意欲や能力の向上が図られる。</p>	<p>① 通学距離が長くなり、登下校の安全面に配慮する必要がある。</p> <p>② 同じ小学校で学んだ級友が、異なる中学校に通学する場合がある。</p> <p>③ 生徒の通学校が異なることから、地域とのつながりが薄くなる可能性がある。</p>



校区の中学校は廃校となる。進学を希望する学校を、市が指定する複数の近隣中学校から選ぶ。

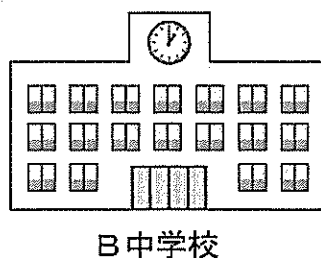
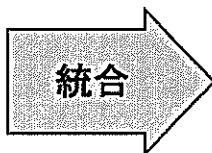
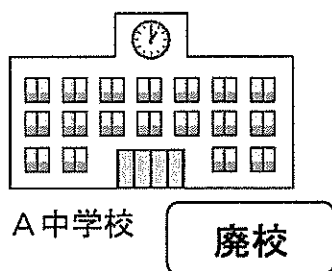
## 2 学校統合

一定規模の集団を確保するために、2校以上の学校を統合して、1つの学校にすること。統合には、様々な方法がある。

メリット	デメリット
<p>① 一定規模の集団の中で、中学校教育で重視している「切磋琢磨を通じた社会性の育成」や「多様な価値観の理解」を図ることができる。</p> <p>② 体育祭などの学校行事や音楽活動、部活動等の集団教育活動の活性化を図りやすい。</p> <p>③ クラス替えにより、人間関係の固定化を緩和できる。</p>	<p>① 小規模校と比較して、きめ細やかな指導ができにくい。</p> <p>② 校区が広がるため、地域の方々や団体に協力を得る教育活動が行いにくい。</p> <p>③ 遠距離通学が増え、登下校の安全面へ配慮する必要がある。</p>

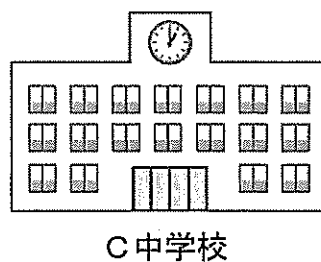
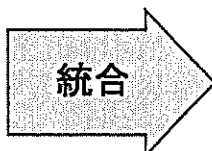
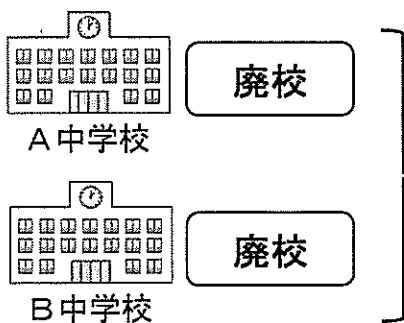
(例) 1つの中学校に吸収統合

2つの中学校のうち1つを廃校とし、他方の中学校の校舎を活用して統合する。



(例) 統合して新たな中学校を新設

2つの中学校ともに廃校とし、新たな中学校を新設する。

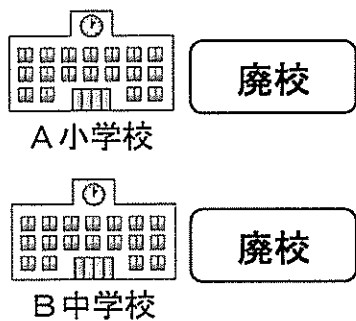


### 3 小中一貫校

小学校からの中学校まで9年間を通して系統的に教育活動を行う学校のこと。小中一貫校には色々な型があり、同じ校舎で学習する「一体型」、異なる校舎で学習するが行事等を合同で行ったりする「分離型」などがある。

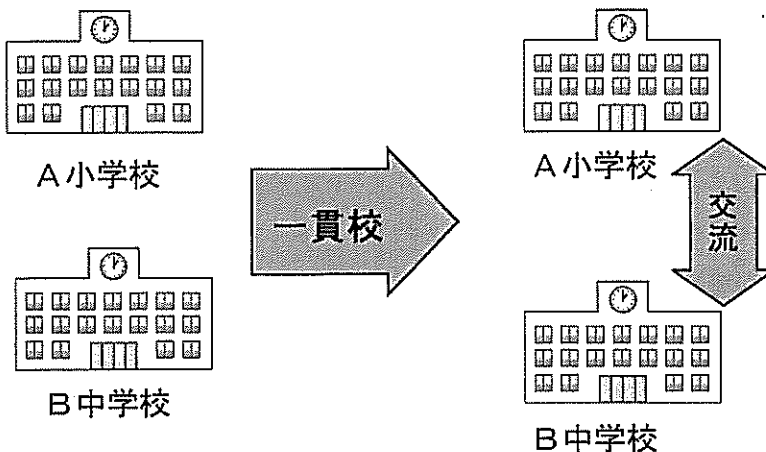
メリット	デメリット
① 9年間、系統的に子どもの育成が図られ、小学生と中学生がともに学び合う活動が行いやすくなる。	① 学年、学級の生徒数が増えるわけではないので、小規模の課題は根本的に解決されない。
② 環境を変えずに小学校から中学校に進級できる。	② 固定的な人間関係が9年間続く。
③ 地域行事に合同で参加する等、学校と地域の連携が促進される。	③ 中学校の部活動における少人数問題を解決できない。

#### (例) 小学校と中学校が同じ校舎 (一体型)



A小学校、B中学校を廃校とし、新たな校舎にA小学校とB中学校の2つの学校が入る。学年は小中を通して、1年生から9年生となる。

#### (例) 小学校と中学校が別の校舎 (分離型)



A小学校、B中学校は現状のまま残し、行事等を小学校と中学校が合同で行ったり、交流授業を行ったりする。学年は小中を通して、1年生から9年生となる。